

山田小学校だより (Metamorphose)



文責 校長 谷川 晴 峰

23日は、「勤労感謝の日」です！

23日は、「勤労感謝の日」です。おまけに、3連休の初日ということもあり、子供たちも楽しみにしていると思います。国民の祝日に関する法律（祝日法：昭和23年7月20日法律第178号）第2条によれば、「勤労を尊（たつと）び、生産を祝い、国民たがいに感謝しあう」ことを趣旨としているそうです。

もともとは、飛鳥時代から始まった新嘗祭（にいなめさい）という収穫物に感謝する天皇行事で、第二次世界大戦後の1948年に国民の祝日と改定されました。祝日法で定めることにより、以前の農作物の恵みに感謝する日から、勤労を尊（たつと）ぶ日と変更しましたが、これは、勤労の成果物が農作物だけでなく、物品や研究等、勤労で生み出される文化や精神、発展等を視野に入れての制定だったようです。

働く＝労働に関する数字を調べてみると、やや戦慄を覚えます。2020年代初めには、日本の総人口が毎年60万人ほど減り、2100年頃には人口が5000万人を切るとの予測があるのです。自分には関係の無い話ですが、今から生まれてくる子供たちにとっては、重い現実になりそうです。いわゆる、2025年問題と2045年問題のことです。

「はたらく」とは、【はた（周囲）を楽にする】ことだという言葉聞いたこともあります。他者に尽くす喜びが、自分の成長に結びついていくのかもしれませんが。「人のため」「地域のため」「社会のため」という強い思いをもった人間に、山田小学校の子供たちも、育ってほしいものです。

威厳と慈愛・・・そして継続！

戦後、我が国が見失ったもの、捨てなくてもよかったのに、何の躊躇（ためらい）もなく、捨て去ってしまったもの……。物質的には満ち足りた日々かもしれませんが、「今の日本は、幸せな国である」と、私は言えません。確かに豊かそうには見えますが……。

「威厳と慈愛」・・・相反する価値のようですが、同根であり表裏一体の価値観だと考えます。かのマザーテレサは、「愛の反対は、無関心である」と言っています。「愛するが故の厳しさ」も、あって当然です。学校も地域・社会も「慈愛と威厳」を根底に、子供たちと接していくことが、現状を打破していく小さな突破口となるかもしれません。そして何よりも重要なのは、それを継続していくことだと思います。（継続することが、イチバン ムズカシイ ノデショウガ）

分り難く読み辛い文章で恐縮です。聞こえてきそうな批判を想像しながら、敢えて書き進めてきましたが、時代は切迫しています。遠い街で起きている出来事が、報道されているわけではありません。明日、私たちの身近な空間で、突発的に、或いは偶発的に起きる可能性もあります。危機感と緊張感を忘れずに、子供たちと共に、充実した学校生活を日々送れるよう、全教職員が心を一つにして職務に邁進（まいしん）していきます。

しかし、学校のもつ教育力にも限界はあります。今まで以上に、家庭・地域社会からの御支援が必要です。幸いに、山田小学校では様々な学校行事やPTA活動、地域との交流事業等で、常日頃より大きな御協力を頂いております。今後とも、御理解と御協力を切に願うものであります。

世の中には多様な意見があり、考え方もそれぞれに違うと思います。ただ、「今、何か起きています。」「予想もつかない大きな変化に、我々の生活が蝕まれつつある。」という共通認識を、誰もが感じているはずで、その原因は複雑で、多面的です。解決するにも妙薬は存在しませんが、考えてみたいと思います。「威厳」と「慈愛」そして「継続」を根底に据えて。